

障害者・高齢者比率の推移

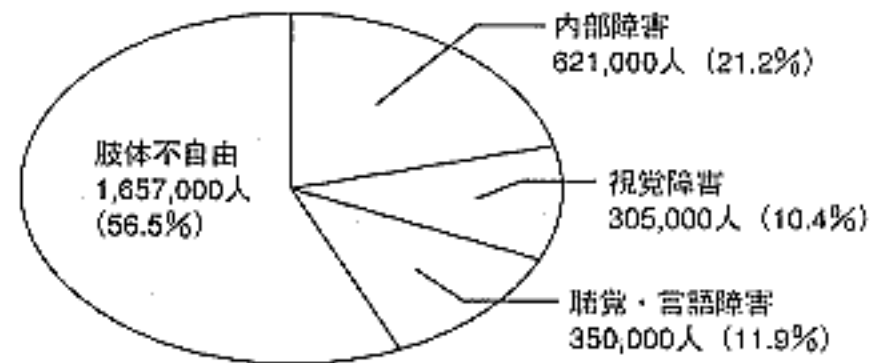
わが国の身体障害者や高齢者の推移は次のようになることが予想されており、介護保険法の施行とあわせて福祉輸送サービス事業の果たす役割はますます重要になってきます。

1 身体障害者の比率

人口1,000人に対する身体障害者の比率は、昭和55年で23.8人と昭和30年との比較では9.4人上回っており平成8年では28.9人で昭和30年、36年前との比較では倍以上となっております。

また、年齢階級別にみた人口比率は少子高齢化の時代背景から高齢者ほど高くなっておりま

障害者の種類別にみた身体障害者数（在宅）
（総数：2,933,000人）（1996年推計数）（再掲：重複障害179,000人）



年齢階級別にみた身体障害者の年次推移（人口千人対）

年次	総数	18～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上
1955(昭和30)年	14.4	5.3	7.1	14.5	16.0	20.6	25.4	25.4	29.4
1980(昭和55)年	23.8	3.5	4.9	7.0	16.0	33.7	55.8	68.7	87.6
1996(平成8)年	28.9	2.3	3.8	7.0	12.2	26.2	49.6	62.3	94.6

資料：厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部「身体障害者実態調査」

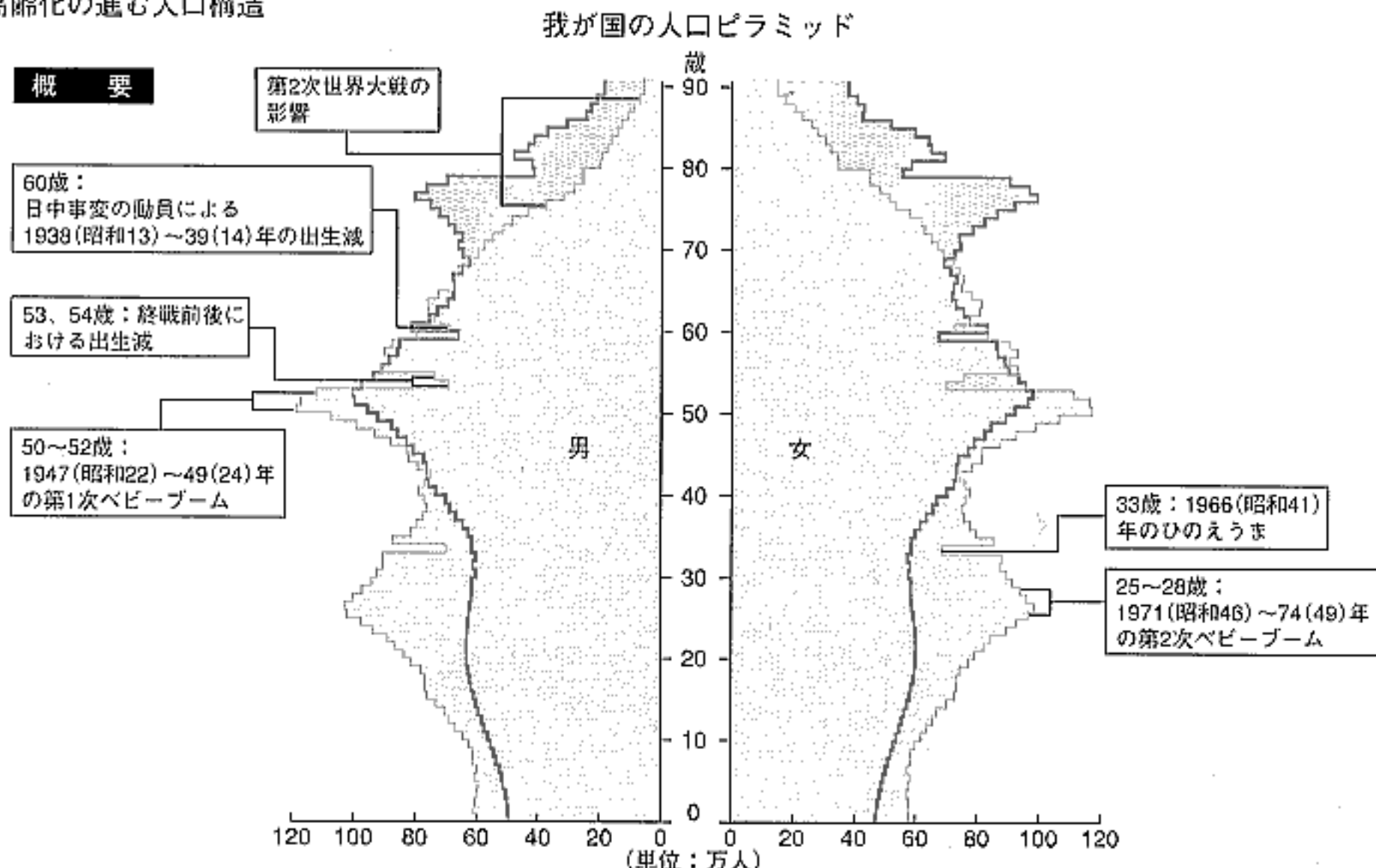
（注）人口千人対の身体障害者数算出の基礎人口は、総務庁統計局の「国勢調査」及び「推計人口」における次の調査時の18歳以上の人口を用いた。

昭和30年：国勢調査の人口
昭和55年：昭和54年10月1日現在の推計人口
平成8年：平成8年11月1日

2 高齢者の比率

わが国の高齢化は、世界に例を見ないほど急速に進展しており、平成12年現在の高齢化率(65歳以上の人口割合)は、17.4%で、平成17年(2005年)には19.9%、平成37年(2025年)には29.5%を超える高い水準に達するものと予測されております。

高齢化の進む人口構造



資料：平成37年は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成9年1月推計)」、

平成11年は総務省統計局「平成11年10月1日現在推計人口」

（注）1938(昭和13)年は1999(平成11)年、2025(平成37)年は2025(平成37)年